

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

「おもてなし」と「親身で丁寧な医療」を重視

⑩ 聖光ヶ丘病院 (千葉県柏市)



首都圏有数のベッドタウンである千葉県柏市。中でも大規模団地のモデルとなった光ヶ丘団地に、聖光ヶ丘病院は2013年6月に新築移転・開院した。ヨーロッパの古城を利用したホテルのような外観に驚く。「ホテル業界は、ホスピタリティー(思いやり・心からのおもてなし)を重要視する。ホテルと病院(Hospital)の語源は同じラテン語の言葉。病院こそ本来のホスピタリティーが必要と考え、建物は外観から細部に至るまで患者さまの居心地の良さに重点を置いた」と関根秀夫理事長兼病院長。

ロビーにはぬくもりが感じられる暖炉、ガラス張り

の吹き抜けになっている華やかな「光庭」。エレベーターホールには光庭の四季を描いたステンドグラスや大型絵画が飾られており、美術館にきたようだ。病棟、病室も壁紙やカーテンの選定、色合いに細心の気配りを行っている。特に個室は高級ホテルの一室を思わせる高級感が漂う造りだ。豪華で心温まる雰囲気の中、病院のゲストコーディネーター「コンシェルジュ」が院内の案内、入院手続きなど各種サービスを行うだけでなく、患者の要望や相談を医師に伝え、的確な医療が受けられる体制を整えている。

旧病院は開設当時は療養型病院だったが、その



後、地域ニーズに応える形で一般病院に方針転換。市街化調整区域であった旧病院建物では、最新医療に対応できる設備と医療スタッフの充実を図る上で改修・増設が困難で、旧病院から約800m離れた光ヶ丘団地に新築・移転した。移転時に、地域にちなんだ「聖光ヶ丘病院」と名称変更し、5階建て、病床数219床(一般病床131床、医療療養型88床)に増床、最新設備を備えた放射線検査室や健診センター、内視鏡センターを備えた病院となった。

聖光ヶ丘病院の理念は「患者さまに優しく、親身に丁寧な医療」を実践すること。大病院にありがち

な冷たく感じる、一方的に押し付ける医療ではなく、医師が患者と家族の話を丁寧に聞きながら十分に話し合った上で心の通った医療を行うのが特徴で「安心できる」と患者、家族から評判だ。

地域の高齢化、在宅医療に対応すべく、近隣の在宅クリニック、診療所、病院および有料老人ホームなどの各施設と連携し、協力病院、後方支援病院として地域医療、在宅医療に取り組んでいる。

「おもてなし」と「親身に丁寧な医療」を掲げ、移転から1年で早くも地域の信頼を得た聖光ヶ丘病院。今後も地域医療の貢献に期待が持たれる。

病を未然に防ぐプロが地域に開く窓

⑩ 高戸橋クリニック (東京都新宿区)



エントランス待合。幹線道路がすぐそばを走るとは思えない静寂

「学校・企業・官公庁における健康診断、集団健診、巡回健診など、各種検査のスペシャリスト集団」——そんなキャッチフレーズの下、医療法人財団総友会は予防医学を中心に展開している。高戸橋クリニックは集団健診・巡回健診を受けられなかったり、二次検査や精密検査が必要だったりする受診者を日々迎えている。一方で住民のために診療も行い、地域に貢献してきた。

〈地域に根差した掛かりつけ医〉〈街の頼れるお医者さん〉。クリニックが掲げるコンセプトは平易だが、体現するのはなかなか難しい。

クリニックの所在地には戦前から病院があった。その後、跡地にマンションが建つ。1階にはクリニックが入った。総友会は高田馬場駅前小さなクリニックを運営していたが、縁あって移転。新たに高戸橋クリニックとして生まれ変わった。

「小ぢんまりはしていますが、お待たせしないで検査が受けられる。迅速さはメリットではないかと思っています」(鈴木武夫理事長)

健診の受診者は東京23区内を中心に遠くは多摩地区や横浜市からも訪れる。戸塚警察署の真ん前でもあり、初めての人も分かりやすい立地だ。



玄関。ランドマークもあり、アクセスしやすい立地



診察室。検査のデータがすぐに見られるシステム



検査室。安心感を与える内装



X線室。分かりやすい結果報告とアフターフォローを心掛ける



マンモグラフィ室。婦人科検診も充実



待合室の廊下に掛けられた絵。優しく患者を見守る

「多種多様な健診を受けられる施設。それにしてはコンパクトにできている」(同前)

院内は機能性を重視したしつらえ。明るい木目と緑色を基調とした温かみのあるデザイン。緑は総友会のイメージカラーでもある。受付に来た時点で来院する全ての人に安心感を与えている。

「予防医学」に軸足を置いて約20年。最近でこそ国も力を入れているが、当時はそれほどよく聞く言葉ではなかった。かつて放った嚆矢はめぐりめぐって今また地域に深く突き刺さっている。

「健診を柱とする以上、個人情報の管理は非常

に重要な課題です。ISO14001と9001を取得したり、プライバシーマーク(Pマーク)認定を受けたりしたのも、取り組みの一環。現在34万人のデータを取り扱っています。これだけの数を間違いなく執り行うのは並大抵のことではありません」(同前)

「究極的には信頼を得られるかどうか」——健診業務を主とする医療機関の使命を尋ねると、こんな答えが返ってきた。言うはやすく、行うは難し。地道な作業の積み重ねがものを言う世界だ。

病気を未然に防ぐため、目を凝らし、耳を澄ます。そんなプロたちがここにはいつもいる。